

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	小金井市東町 3 - 1 - 1 6
園名	小金井市立くりのみ保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

クワガタムシとカブトムシの違いについて

＜テーマの設定理由＞

クラスの子どもが、捕まえたクワガタを保育園に持ってきた。
子どもたちが興味を持ち、育てたいという話になった。
また、その後カブトムシももらうことができ、育ててみることにした。

2. 活動スケジュール

7 月 クワガタ・カブトムシを育てはじめる。
何を食べるのか、どのような環境が良いのか考える。
世話をしながら、違いについて知る。
8 月 観察しながら、粘土で表現する。
9 月 亡くなった個体を顕微鏡で細かいところまで観察する。
1 月 LaQ で昆虫を作って、博物館を作る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

飼育ケース、飼育マット、昆虫ゼリー、霧吹き、木の棒、顕微鏡

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

クワガタとカブトムシを育て、動きの違い、体の違いなどを見る
世話をする中で、何を食べるのか、どのような環境がいいのかなど、調べたり、考えたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

7 月 飼うことになると、図鑑をもってきて、クワガタやカブトムシについて調べる。

もぐるために、土が必要な事、ご飯が必要な事を学ぶ。

飼育ケースの中にいたクワガタがひっくり返し、中々戻れない姿を見て、捕まる木が必要な事を学ぶ。

「何を食べるのかな?」「樹液だよ!」「あと、昆虫ゼリー!」「スイカも食べるって聞いた事ある」「スイカはダメって聞いたことある!」など、色々な意見が出る。

樹液に似ているものは何か?という話になり、「はちみつは?」という意見から給食室からはちみつをもらって与えてみたが、食べなかった。

日々のお世話の中では「クワガタって土からなかなか出てこないね。死んじゃってる?」

「でもさ、ゼリーなくなってるよ?食べてるって事は...生きてる?」「そしたらゼリーを新しくしないとおなかすいちゃうね」「カブトムシの方が外に出てくる気がする」等の

気づきがあった。

8 月 生態などを観察する中で、カブトムシとクワガタを見ながら、粘土で形を作る姿も出てきた。「足は、三つがくっついてるんだね。だから曲がるのか」「クワガタとカブトムシの角の形は違うね。」「メスにもちっちゃい角があるんだね」など、話しながら粘土で作る姿があった。

9 月 ある日、クワガタ、カブトムシ雄、カブトムシ雌が、数日の間に立て続けに亡くなった。

せっかくなので、顕微鏡で個体を見てみる事とする。

子ども「口にブラシがついている!」

「これで樹液食べるんじゃない?」

「みんなにブラシがついているね」

保育士「足が 1 本短いね」

子ども「ホントだ!だから、よく転がってたの?」

「足がトゲトゲしてる!」

「そうだよ!それで木から落ちないんだよ!」

「クワガタの目、真っ黒だね~」

「カブトムシちょっと違うね」

等と、色々な事を学ぶことができた。

1 月 LaQ で遊べるようになると、「昆虫を作りたい」という気持ちが子どもから出てきたので、飼育ケースを出して飾れるようにした。お店屋さんごっこに昆虫博物館として出店したいという意見が出て、遊びが発展した。

「カブトムシの幼虫は土の中にいるよね」「木もあつたらいいね」と、飼育ケースの中に茶色の布や本物の木を入れ、展示する環境を整えた。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

例年“ただ育てる”になりがちだが、違いについて知る事をねらいとして、子どもと共に調べながら知っていくことで、よりカブトムシとクワガタについて知る事が出来て、大人も新たな発見があった。

正解を伝えるのではなく、失敗も含め、実際に考えたことを試しながら、図鑑や個体を観察し、自分たちで探究していく中で得た知識は、大人が一方向的に伝えるよりも、子どもたちの学びになったと思う。

また、主体的に関わることで子どもの興味・関心が広がり、カブトムシやクワガタだけでなく昆虫や生き物全般に興味ひろがり、他の生き物も飼育していくようになった事に気づいた。

昆虫に対して「怖い」と後ろ向きな子どもも、お世話をする他児の様子を見て、少しずつ触れるようになり、秋には散歩先の公園でコオロギを1人1匹捕獲したり、短期間カエルを飼育したりと、幅が広がり、現在もカブトムシの幼虫を飼育している。

大人も子どもと昆虫にのめりこみ、より知識が増えて、遊びの提案が発展していった。